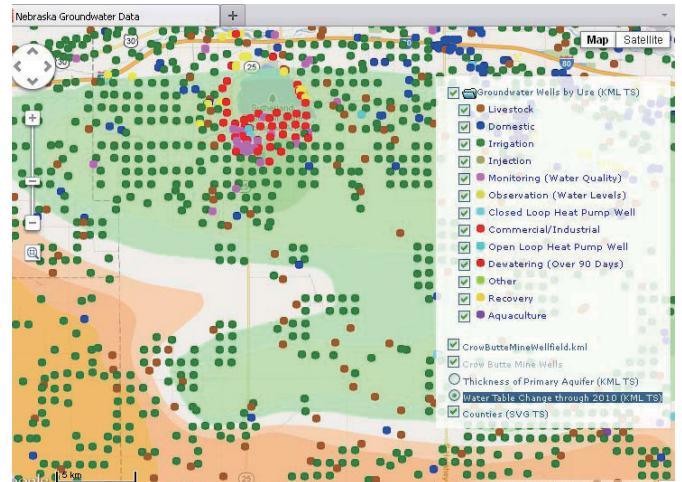


ジオマッシュアップした KML レイヤの凡例

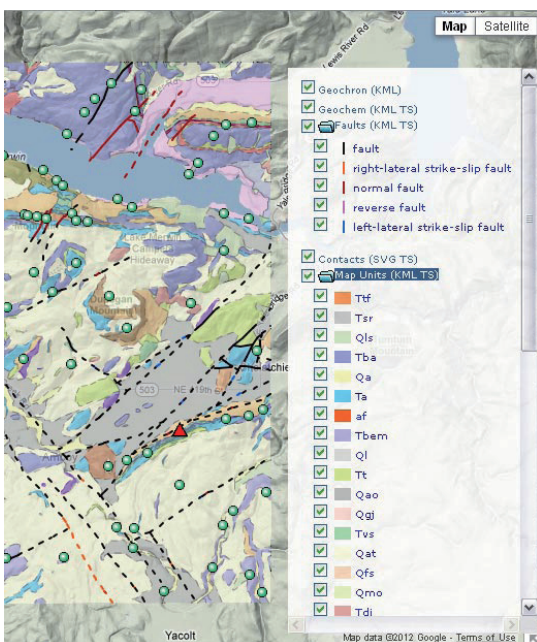
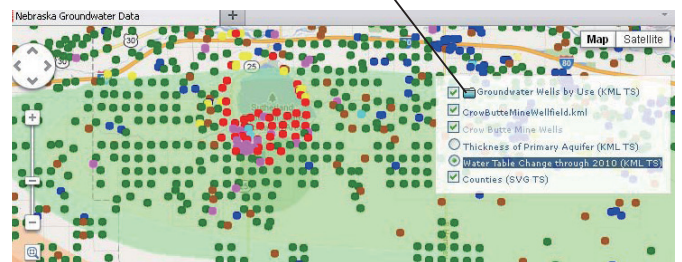
TNTmips の [ジオマッシュアップの構築 (Assemble Geomashup)] 処理で作成した Google マップのジオマッシュアップには TNT ベクタオブジェクトから作った KML オーバレイを含めることができます。KML オーバレイを含むジオマッシュアップを作成するときに、属性に基づいて異なるスタイルの付いた地図要素 (ポイント、ライン、ポリゴン) を持つ KML レイヤに対して凡例を持たせるようにすることができます。出来上がった凡例はジオマッシュアップレイヤコントロールの一部となり、対応する属性値とともに各カテゴリ別のスタイルが表示されます (右図と下図)。

ジオマッシュアップに KML オーバレイを追加すると、〈カスタム設定 (Custom Settings)〉ウィンドウが開きます (右下図)。KML レイヤに対して凡例を作成するには、まず [マイクロイメージの GeoXml パーサを使用する (Use MicroImages GeoXml Parser)] オプションを選択して下さい。これは Google マップのパーサではできない処理を提供します。(テクニカルガイドの「ジオメディアの公開: ジオマッシュアップで KML オーバレイを使う (Geomedia Publishing: Using KML Overlays in Geomashups)」を参照)。それから、[レイヤコントロールでサブ凡例を表示 (Show Sub-legend in Layer Controls)] オプションをオンにすると、このレイヤの凡例が作成されます。コントロールでは凡例を最初から階層を開いて表示するか、閉じて表示するかも指定できます。ブラウザにジオマッシュアップが表示されたときに、ビューア上で凡例フォルダアイコンを左クリックすると KML の凡例を開閉できます (上図)。

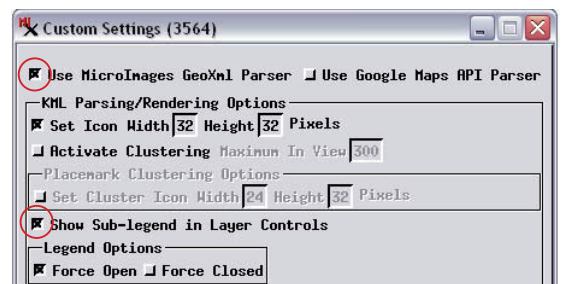
Google マップ用ジオマッシュアップ中の KML レイヤは、表示処理の [KML ヘンダリング (Render to KML)] 機能で生成される KML ファイルでも、[図形型タイルセットのエクスポート (Export Geometric Tileset)] 処理で生成される KML 図形型タイルセットでもかまいません。(テクニカルガイド「空間表示: 地図レイアウトの KML へのレンダリング (Display: Render Map Layouts to KML)」、「タイルセット: 図形構造へのエクスポート (Tilesets: Export Geometric Structures)」を参照)。どちらの操作でも、ベクタ要素に対して設定した属性のデータタイプ情報は KML レイヤ中の対応する地物に引き継がれます。通常、ベクタデータの (次ページに続く)



地下水の井戸の位置を示すポイントの KML 図形型タイルセットレイヤを含むジオマッシュアップ。レイヤコントロールにあるポイントの凡例には、地下水の利用状況を異なるポイントシンボルで表示しています。[ジオマッシュアップの構築] 処理で凡例を有効に設定すると、凡例を初めから全部開く (上図) か、閉じておく (下図) を設定できます。KML の凡例はジオマッシュアップの中でフォルダアイコンをクリックすればマニュアルで開閉できます。

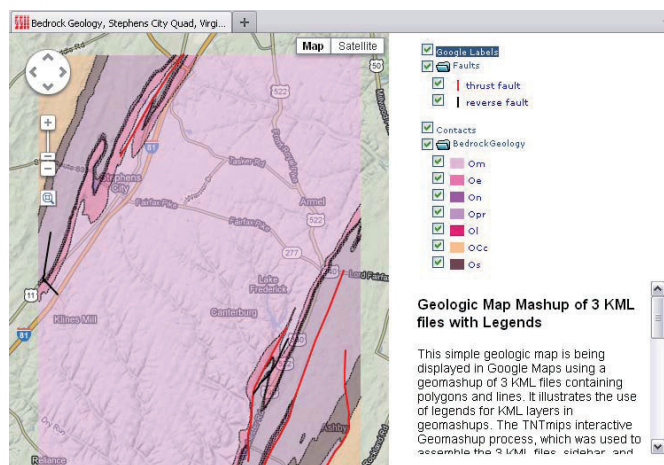


左図: 地質図のジオマッシュアップ。レイヤコントロールに断層線 (ライン) と地質ポリゴンの凡例がある。凡例が長すぎるのでレイヤコントロールには自動的にスクロールバーが付きます。

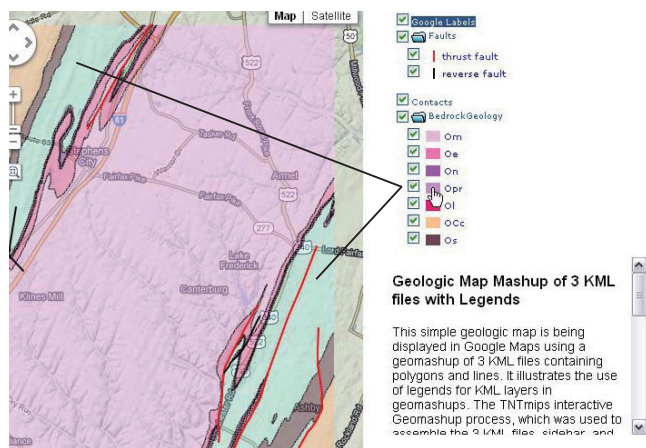


KML レイヤ用の〈カスタム設定〉ウィンドウのチェックボックスで、そのレイヤに凡例を表示するかしないかを設定できます。凡例をデフォルトで開いて表示するか閉じて表示するかの設定もできます。

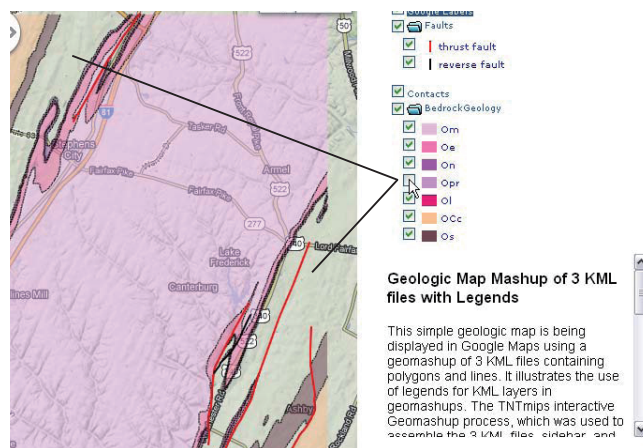
データティップにはスタイル付けした属性（基本属性）を含めます。それは出来たKMLオーバレイに対して意味のある凡例を生成する上で必要なことです。ベクタ要素の基本属性を表示するのに1行データティップを使うなら、ジオマッシュアップ内のKML凡例にこの属性値が自動的に表示されます。データティップのソースとして文字列フィールドを使った複数行のデータティップを設定した場合、まず基本属性を列挙し、ヘッダタグの中にそれを入れるためHTML書式を含めなければなりません。その際、基本属性は各地物のKMLの名前(name)プロパティに割り当て、残りのデータティップテキストはKMLの説明プロパティに割り当てます(ジオマッシュアップの凡例には各区分に対するKMLの名前プロパティが表示されます)。KMLへの変換用に、複数行を表示するデータティップに対して適切なHTML書式を設定する手順と具体例については、テクニカルガイド「ジオメディアの公開：グーグル Maps/Earth の情報ウィンドウ用のデータティップデザイン (Geomedia Publishing: DataTip Design for Google Maps/Earth Info Windows)」を参照してください。



地質図のジオマッシュアップ。地質のポリゴンレイヤと断層線レイヤの凡例が付いた2個のKMLファイルから構成されている。この例ではレイヤコントロールと凡例がサイドバーパネルに埋め込まれています。



凡例のサンプルの上で左クリックすると、そのカテゴリに含まれる全ての地質要素がハイライト表示します(この図では薄緑色の領域)。再度クリックすると、ハイライト表示は消えます。



凡例サンプルの隣にあるチェックボックスを左クリックすると、そのカテゴリに属する全地質要素の表示/非表示が切り替わります。

